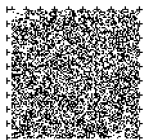


## 笹川委員提出資料



平成29年10月20日

## 意見書

公益社団法人 東京都盲人福祉協会  
会長 笹川吉彦

### 「新障害者センター建設について」

現在の障害者福祉会館は建築後50年近く、色々な問題が生じてきており、2020オリンピック・パラリンピックの開催に向け新築または移転など何らかの方法を考慮していただきたい。現状の問題点は下記のとおり。

1. 建設当時に比べ障害者の数は倍増しており狭隘となっていること。  
例えば、本会が開催する代議員総会は執行部を含め定員が120名となっており、今の研修室では介助者や同行援護従業者が同席できない状態。従って介助者や同行援護従業者は別室（2階）で待機する結果となっているのが現状であり同行援護従業者が認められている読み書きの支援ができない。
2. 色々な催しを行うに当たって参加者制限を行わざるを得ず、会員間に不公平を生じている。
3. 首都圏直下型地震など災害の場合の危険度は極めて高く、地震はもとより火災等の危険に満ちている。
4. 3階から15階までは都営住宅となっており、福祉施設の上に住宅が13階ものっているのに問題はないか。過日、ロンドンで発生した公営住宅の大惨事を思うとき何らかの対策、特に福祉施設と公営住宅が同居しているのは大いに考慮すべき。
5. 駐車場が狭く需要に応じられていない。
6. 会館近くに第一京浜国道が通っており、震災の際の車両の衝突などで火災が発生した場合、避難に困難を極めること。
7. 障害者活動の中心となるべき「東京都障害者社会参加推進協議会」が同居しておらず、本来の目的が達成されていないこと。
8. 2020オリンピック・パラリンピックには世界各国から多くの来訪者があり、当然福祉施設などの訪問も予測され、大東京の障害者福祉を象徴するセンターであるにはあまりにも貧相であること。

